

コクリエ・セキ

Co-Creation



ご意見・
お困り事は
こちらのLINE
からお気軽に

特集

関市の中心市街地・本町通りの未来は？

こんにちは、関市議会議員の北村です。

本町通り商店街はこの30年の間に100店ものお店がなくなりました。しかしその一方で、本町BASEでのチャレンジを経て、新たに本町に2店（市全域では16店）が出店を果たされました。関市の中心市街地の未来について、令和6年6月議会で一般質問した点からお伝えいたします。

2024 夏 | 第5号

1

今年度の中心市街地の新たな支援策

大きくは2つ行います。

- ・歩行者の利便増進を図るため、本町1丁目から7丁目までの軒先と歩道のスペースを活用して、滞留施設となるベンチやテーブル、ストリートシェード（写真）を設置する生活社会実験を実施（7月末まで）
- ・空き店舗活用支援事業補助金の対象エリアを拡大し、空き家を店舗に改修する場合でもOKに。



2

本町BASEは今後どうなる？

当初は7月の再開を目指していたが、方針の決定に時間を要している。現在は2025年1月の試験的な再開を目指している。

現在検討中の案

- 目的** 新規創業、新商品開発の挑戦を応援する「チャレンジ応援強化」
- 形態** 創業支援とチャレンジ店舗の両方を備えた施設

3

中期のチャレンジショップの整備に向けて

関市は「一歩目のチャレンジ」の支援は充実している。しかし、そこから出店や起業につなげることは難しい。

— その間を埋めるチャレンジショップ等の創業支援を検討している。

4

まちづくり会社の始動に向けて

今年度、空き店舗の調査を実施して、新たに、中心市街地活性化エリア計画を策定する。まちづくり会社については、民間の団体で実績が上がってきたら、都市再生推進法人の指定をしていくという、具体的な流れの方針はある。

5

ミニ区画整理をしては？

商店街には、空き地も増えてきた。そこも含めて、小さく区画を整理すれば、細長い土地を「前を店舗」「後ろを住宅」と分けたりなど、新たな商店街の形ができる。

— 市としては、先進地視察も行い、調査をしていく予定。

まとめ

中心市街地に対する私の考えは、「小さなお店をたくさん増やさなければいけない」ということです。そのために3つ実施するべきです。

1

出店支援

本町BASE等でのスタート支援、チャレンジショップ等での中期の創業支援

2

まちづくり会社の中間支援

高齢の家主の方も多く、リスクを負ってまでリフォームするのは難しい。そこで間にまちづくり会社が入り、その会社がリフォーム等をして貸し出す「サブリース事業」等を。

3

区画整理により新たなまちづくりを

区画整理をして、より出店しやすい形へ、根本的に変えていくことが必要

＼関のまちづくり会社を考える勉強会やります！／ 詳しくはうら面へ

北村たかゆき
プロフィール

岐阜県関市出身。1980年生まれ。関幼稚園、安桜小学校、緑ヶ丘中学校、関高等学校、金沢大学法学部、名古屋大学大学院国際開発研究科修了。

石川県七尾市のまちづくりの株式会社に従事してまちづくりを学んだ後、名古屋市内の中間支援NPOに従事。その後、ふるさと関市でまちづくりNPOを立ち上げ、市民参加型フリーマガジン「ぶうめらん」を創刊。

2009年よりNPO法人が関市市民活動センターの運営を受託。その他の主な歴任した役職；NPO法人ぎふNPOセンター副理事長／公益財団法人あいちコミュニティ財団理事、岐阜医療科学大学、岐阜大学非常勤講師／関有知高等学校 学校運営協議会委員／安桜保育園父母の会会長／安桜小学校PTA R4成人・ふれあい委員会委員長／関市社会福祉協議会評議員／社会福祉法人桜友会評議員 等